

農業の直接支援・くらし応援こそ先決 住民合意ないまま進めていいのでしょうか

収支見通し（年間）

収入
 ☆直販所運営費収入：375万円
 【根拠】売り上げを2500万円とし、その15%が運営費として
 ☆レストラン関係：880万円
 【根拠】一人一回800円×年2万2千人の利用×50%が収益として入る
 ☆その他の収入：明らかにはされていない（差額を逆算すると最小1045万・最大1145万）
 【根拠】加工体験720人、イベント1万人、コンビニ・他の食材関係や出店料などを含む

収入合計 2300万円～2400万円

支出
 ☆人件費：6名規模 1000万円
 ☆維持管理費 1000万円

支出合計 2300万円

（注）本年6月議会答弁に基づき作成。「支出」で人件費、維持管理費の合計が符合しない数値は雑費300万円とみられる。

住民アンケート
第6次中間集計

拠点施設の建設について

建設を先行すべき	29
建設は先行すべきでない	326
どちらとも言えない	49
無記入	16
合計	420通（8月8日現在）

自由意見特集その6

（8月）

8日までの回収分も自由意見が多いため、未掲載の方もあります。順次掲載しますのでお待ちください。句読点、接続詞などは編集者で修正しました。）

建設は先行すべき
農村に生まれた青年を育くむため。（年代無記入）
今日までの中、甲良町農業は他産業への流出に押され低迷。農家のや

る気の無さにも一因はあるが、農協、行政、特に農協の指導力の無さに大きな原因がある。現状では特産品などは出来る現状に無い。今後は農協など当てにしないで農業を進めるべきである。よって、交流村施設発展を目指して農家自らが地域農業発展に自助努力すべきである。

計画内容は地域農業発展の拠点となるべく貴方がたや行政（国、県、町、農協は不要）等により地元貢献に向けた内容にすべきである。（町の）広報だけではわからない点多々あり、貴機関としても計画内容を公表し、建設的な方向で意見を述べられることを期待する（50代）

建設は先行すべきでない

町の説明を聞き理想とするものはわかるが、具体性が全くなかった。現実にせせらぎ販売も毎日有線でコマースシャルしているが、魅力を感じない。収入の予測を聞かれても「絵に描いたモチ」のような答しかなかった。町が今までやってきた「カモ公園、育苗センター」全てが同和行政のつけであり、尼子駅にしても、現町長の利権がらみ、土地ころがし、だったという噂もあり、今回の土地取得も利権がらみが目に見えている。現時点で強行にやろうとしている計画の失敗は誰が責任を取るのであるうか。昔行なってきた箱物の失敗は誰が責任を取るのであるうか。一般家庭では赤字になる事をやろうとはしないはず。人のお金だから出来るのではない

もうつけはいらぬ。同和行政のはびこりもいらない。各字で自立していくことを見つけていけばいい。

（町の発表について）あくまでも絵に描いたモチ・・・将来展望も全て無理。307号線の車の通行量から来る施設への出入りについての説明もあつたが、10台か100台

（2面に続く）

上表「収支見通し」は担当課の答弁を表にしたもの。担当課によれば、この試算は平成18年3月発行の「甲良ふるさと交流村構想」をベースにしたものと言うが科学的根拠は不明。その冊子には施設利用見込み人口の検討（34P）で、通行台数、乗用車の乗用人員を2.5人、バスの乗用人員を20人と推計するなどして、吸引人口見込みを「61706～205686人/年」と立てている。

甲良民報
 2008年8月10日 391号
 発行責任：日本共産党甲良町支部
 代表：西澤伸明 甲良町在土463
 Tel.Fax38-4949

ひとりひとり意見 誠にありがとうございます

の内1台は立ち寄るなどの計算を出されていたが、アホらしく聞いていられない。町職員全て、関わろうとしている人達が、赤字だったら責任を取るくらいの中身でないと思ってしまう。町民に絶対にツケを回さない事が前提！今の甲良の意識では無理。もっと収支展望を具体的に数字であらわしていくべき。都合の悪い事はふれていないと思っ。



甲良町の議会は腰抜けだと思っ。本当に甲良町の事を思っている人がどれだけのいるだろう。この同和行政に真っすぐに向かっていける人は西澤さんだけだと思っ。同和行政のひずみは、率直に討論できなくなっている。また、子ども教育に対しても、そのひずみが今の小学校・中学校へと影響させている。でも本音が言えないこの自治体おかしいですネ。頑張っ下さい……

甲良はゆがんでいます。同和行政のゆがみ。人事採用面。昇級している人ほど疑わしい。職員採用。社協職員。社協職員(裏で何をやっているか疑わしい)。教育委員会。

売る特産品もないのになぜ造るのかわからない。交通量も多いとは言えないし目立たないのになぜ多くいくとは思えない。(300代)

各地の道の駅では土・日は客足があっても、平日となるとひっそりしていると思っ。行楽シーズンの時だけでは、普通の「みやげ物屋」となっってしまう。何年もかけて特産品と言える物ができたとしても、はたしてそれが近所で売っているものなら値打ちがない。本当に「これこそ」と言える特産品が出来てからでも遅くないと思っ。人件費や維持費もバカにならない時に「箱物」を先に造って、あとから「何する」では困る。つまく行かない事が多いというマイナス面を頭におきながら進めないで赤字経営になる。町をあげてする事に失敗は許されない。

今回の計画のこととは関係ありませんが、ニュースでも問題になっている大分の教員採用不正など、田舎では昔から当たり前のようだと思います。甲良町でも、何かあって不思議ではないと思っています。保守的な町ですから、だれかが調べてほしいです。(40代)

『甲良ふるさと交流村』について、町は住民説明をしてきたと言われます。もう何年前になるか、住民説明会の席の話題が「この村で出せる特産品は？」というようなテーマで、村民は「昔こんなものがあつた。〇〇があつた。ならつくれるかも、も穫れるかも……」と言っような話が出ました。この席での印象は懐かしいだけで、何の具体性もないものでした。ああいった会合が積み重ねの一つの実績としたら、とんでもないことです。どこで、どう話は進んできたのでしょうか。充分な説明、充分な意見聴取、充分な討議が尽くされてきたという印象はありません。

「広報こうら」で充分知ってこなかった、といっのが感想です。気がついたら土地の買収が済んでいたと思います。愛東マーガレットステーションは別として、出来た時は人気があつたが、暫らくすれば、どこでも似たりよったり、リピートしたい

ようなところは稀です。有るから寄っってみるけど、ガツカリという所が多いです。ハードは後の負担が多くなります。この厳しい町財政で、こんなものを造っていいのでしょうか。町民にツケがまわってくるのではないのでしょうか。(60代)

赤字経営の危険性が非常に高いと思っるので、充分に採算が合うといっ根拠を明確に示してから着手すべきである。でなければ、もし将来、膨大な赤字が発生した場合の責任の所在をハッキリさせておくべきである。

一部の人の思い付きとしか思えないような事業で、先々に負の遺産を残すようなことは絶対にしてはならない。

今、北落でやっっている「せせらぎ農産物直販所」での需要の実態はどうなのか？道の駅の構想は現在やっっているものの拡大版であると考ええて大きな間違いはないと思っのだが、であるならば、先ず現状を明らかにすべきである。巨額の資金を投入してでも、規模を拡大しないと惜しいような、旺盛な需要があるのかどうか？(あるわけがない、と思っている)すでに各地で様々な形の「箱物の事業」が破綻している今日、どう考えても時代遅れの構想である。(60代)

